

工具・機械による事故に注意



- ・電動丸のこ等土木工具による作業員の人身事故が発生しています。
- ・事前に使用方法、安全装置等を確認し、未然防止に努めてください。

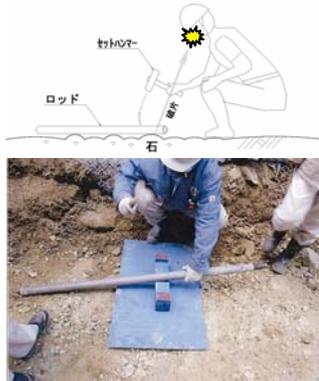
不注意により目を損傷

<事故例>

削孔用ロッドの詰まりを取り除くため、ハンマーで打撃を加えていたところ、誤って地面を叩き、破片が跳ね返ったため、目を損傷した。

<事故防止対策案>

- ・保護めがねを着用する。
- ・地面を叩かないように専用台を設置する。



安全装置の確認不足

<事故例>

ハンドルを巻き上げて、規制車の電光標示板の位置を高くしたが、事前にストッパーの状態を確認しておらず、フリーになっていたため、巻き上げ完了時にハンドルが逆回転し、右肘を負傷した。

<事故防止対策案>

- ・作業前の注意喚起を行う。
- ・選任性の作業とする。



使用器具の点検不足

<事故例>

点検時に、配管の劣化を見落としていたため、生コンを圧送中に配管が破損し、隣接道路を走行中の第三者車両に生コンが飛散した。

<事故防止対策案>

- ・生コンの圧送前に配管の点検・整備を確実にを行う。



危険性の認識不足

<事故例>

ケーブルクレーンのディーゼルエンジンを停止するため停止装置を操作したが、レバーが破損したためエンジン室内のレバーで止めようとしたが、誤ってファンに左手指を巻き込まれた。

<事故防止対策案>

- ・エンジン周辺についても日常点検を行う。
- ・非常時の作業手順を確認する。



安全帯の未装着

<事故例>

①足場組立作業中、②脱型後の表面処理の際、安全帯を装着していなかったため、足を滑らせて墜落した。

安全帯は必ず装着する。

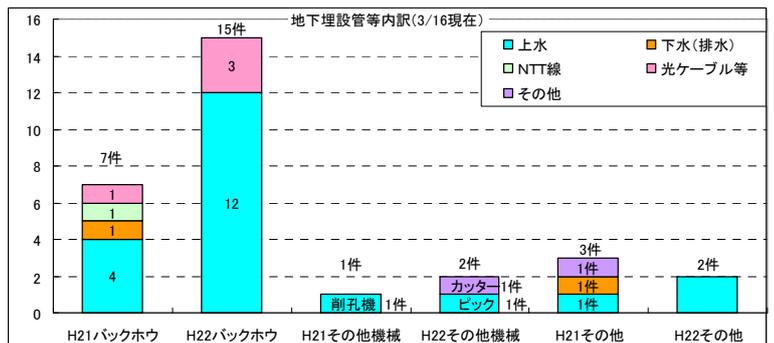


バックホウの運転時に埋設管を破損

・下図は、平成21年度と22年度の地下埋設管の損傷事故に関するグラフです。(3月16日現在、速報値)

・平成21年度と比較すると、今年度はバックホウによる事故が倍増しており、中でも水道管を損傷する事故が目立っています。

・掘削等で重機を用いる際は、必ず事前確認を行ってください。

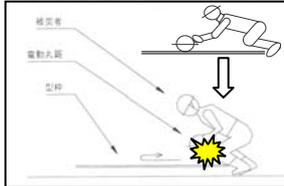


地下埋設管事故 内訳 (3月16日現在)

無理な姿勢で丸のこ作業 玉掛け手順の不徹底

<事故例>

電動丸のこで、合板を長手方向に切断していたところ、手が伸びきってしまったので、前方に移動しようとしたが、電動丸のこが跳ね返り、右足の膝上部分を負傷した。



<事故防止対策案>

- ・不安定な姿勢で作業を行わない。
- ・移動する際には、電動丸のこの電源を必ず切る。

<事故例>

仮設収納式のガードレールの据付作業時に、所定の位置に玉掛けしなかったためフックが外れ、玉掛けワイヤーが跳ねて負傷した。



<事故防止対策案>

- ・作業計画に基づく手順によって玉掛け作業を行う。
- ・玉掛け確認を徹底する。



重篤な工事関係者事故が頻発

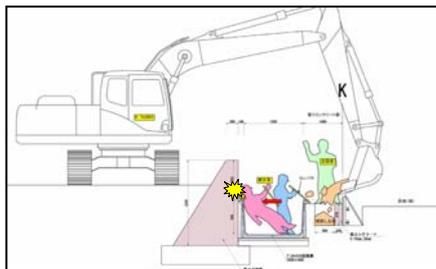


- ・工事関係者が負傷する事故が頻発しています。
- ・今一度、施工計画を見直し、危険作業が潜んでいないか現場全体で確認してください。

土砂投入作業補助者が転倒

<事故概要>

バックホウでの土砂補助者が転倒 バックホウによる土砂投入のこぼれ防止のコンパネ支持していた作業員が転倒し、水路角で背中から首を強打、頸椎を損傷した。



断面図

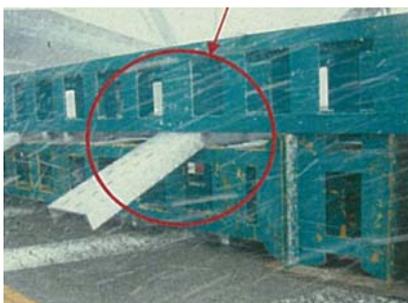


現場状況写真

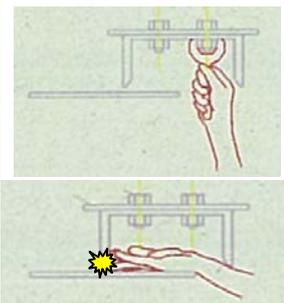
<負傷の程度>

頸椎損傷

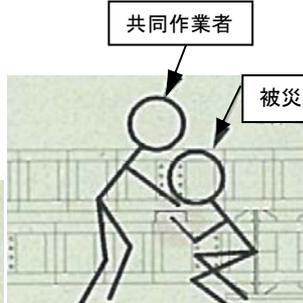
解体作業中、資材に指を挟む



現場状況写真



模式図



断面図

<事故概要>

ベントの横繫ぎ材の解体（ボルト撤去）を行っていた作業員が、何らかの要因で動いたベントと横繫ぎ材に指を挟まれた。

<負傷の程度>

右薬指切断

バックホウが水路に転落し、作業員が負傷

<事故概要>

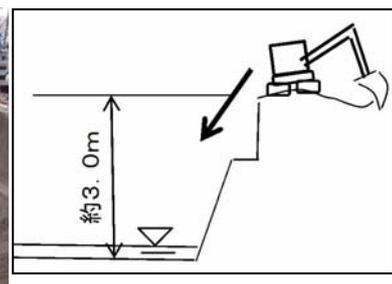
横断防止柵設置のための掘削作業中、硬い地盤にあたったが、バックホウの足元を確認せず強引に掘削をしたため、反動で水路に転落した。

<負傷の程度>

左橈骨骨折、頭部打撲、後頭部挫創、腰部打撲傷、右肘関節打撲傷、頸椎捻挫



現場状況写真



断面図